

平成 22 年 5 月 17 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007 ～ 2009

課題番号：19520100

研究課題名（和文） ロシアにおける日本・朝鮮演劇の影響及び展開過程の研究

研究課題名（英文） Some Aspects of Japanese & Korean Theatre in Russian & Soviet Federation: its effects and developments

研究代表者

永田 靖（NAGATA YASUSHI）

大阪大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：80269969

研究成果の概要（和文）：

ロシアにおける日本と朝鮮演劇の展開過程は、1) 具体的な劇の翻訳と上演 2) ロシアの演劇学者の日本・朝鮮演劇研究 3) 日本・朝鮮演劇の要素の吸収 4) 日本・朝鮮人のロシア内での演劇活動 と4つに分けて考えることができる。1) と 2) については 20 世紀の諸データについて整理し、3) については 20 年代初頭のモダニズム演劇研究として整理した。4) についてはロシアでの国立朝鮮劇劇場について研究の端緒につけた。日本・朝鮮演劇はロシア演劇にとっては、モダニズムの側面において貢献している一方で、ソ連の政治に大きく翻弄もされて来た。ロシアにおける日本・朝鮮演劇の活動は、同時にアジアにおける近代演劇との接触の歴史でもある。

研究成果の概要（英文）：

It is conceivable from a research view of this project that The development of Japanese and Korean Theatre movement in Russian and Soviet Federation has four approaches as follows: (1) Translation and production of the dramas, (2) Japanese and Korean theatre studies in Russia, (3) absorption of Japanese and Korean Theatrical elements, techniques, devices and ideas, (4) theatrical activities by Japanese and Korean people in Russian and Soviet Federation. Based accumulated data and information above, the research project would make clear some points. There had deep impact of Japanese theatre to Russian modernism theatre in early 20 century, however, there were some important activities of Japanese and Korean theatre. Some of them has been not researched sufficiently. Their activities, National Korean Theatre in Kazakhstan or Japanese exile actresses to Soviet Union, has shared a political factor as well as artistic one. The research of these would be made forward in next step of this research.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：アジア演劇、モダン・シアター、朝鮮系ロシア演劇

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究課題の根底には大きく2つの問題意識がある。第1には、現代のグローバリゼーションの進行する中での演劇史学のあり方を問うことである。近代の演劇史学は概ねヨーロッパにおいて展開された「ナショナル・シアター」に基づく演劇史を各国別に各国語に分割されて研究されてきた。ところが20世紀の演劇はグローバリゼーションの進行する中で一層強く意識されることとなり、演劇研究においても大きな問題として浮上している。本研究課題は具体的かつ個別のテーマを扱うが、この問題を根底に置いて、結果としてナショナル・シアター史観に修正を加えていくことを目的としている。

第2には、「アジア」演劇の問題を議論することである。「オリエンタリズム」以後、アジア演劇及びアジア演劇研究者は盛んにヨーロッパ演劇の一元的な価値基準、ヨーロッパ演劇を中心においた演劇史や演劇学理論に修正を加えようとしている。近年では、世界演劇の視野にたったアジア演劇関係の出版が増える傾向を見せたり、また主要な演劇研究の学術雑誌でアジア演劇が特集されている。これらのアジア演劇研究の高まりをもう一つの背景にして、アジアの演劇の展開過程やその美的な特質、さらには「アジア演劇」という言説空間を再検討することをもう一つの課題としている。

2. 研究の目的

本研究の研究代表者は、大きく3つのカテゴリー、「ロシア演劇における近代化の過程と意義」、「近現代演技論の実践と分析理論の研究」、「『20世紀演劇』の誕生と演劇史学の研究」で研究して来た。しかしロシア演劇と非ロシア語圏演劇とりわけアジア演劇との相互関係はほとんど着手されていない。ロシア演劇の近代化の過程を検討していくと、とりわけ20世紀のロシア演劇はアジアの演劇の影響を受け入れ独自の発展を生み出してきたことがわかる。ロシア演劇の性質を理解するためには、これらアジアの演劇の影響を十分検討する必要があると考えられる。本研究では、ロシア演劇とアジアの演劇の複層的な関係、さらにはアジアの演劇の視座の広がり

を獲得することを目的としている。

3. 研究の方法

(1) ロシアにおける資料収集。同時代の主要な新聞雑誌の日本・朝鮮演劇関係の記事調査。これらは、モスクワの芸術学図書館でほぼ閲覧、複写できる。次に、この時期のロシアにおける日本及び朝鮮演劇の研究状況を概ね理解する。この時期には日本演劇研究の先駆者であるコンラッドがアジア演劇の研究を先導しているため、このコンラッドの仕事を中心に、日本やアジアの演劇についてどの程度の理解なのかを把握したい。日本の表象や主題を含む劇（戯曲）を収集と読解。ロシアではさらに多くの日本を主題や表象した劇がとりわけ軽演劇や風俗演劇、あるいは小劇場などで上演されている。これらの劇がどの程度残存しているのか今ほとんど未調査で、今回の調査ではこの点も先鞭を付けたい。ロシアにおける朝鮮演劇については、ウラジオストック極東大学と中央アジア（カザフスタン）への調査を行いたい。

本来、この種の研究は共同研究が相応しい。事実、応募者は現在、日本演劇学会分科会近現代演劇研究会を主宰し、その研究会の中で「アジア演劇の視座」というサブ・プロジェクトを立てて、研究会活動を展開している。今後、国際的共同研究に発展させる可能性を構想している。

4. 研究成果

ロシアにおける日本と朝鮮演劇の展開過程は、1) 具体的な劇の翻訳と上演 2) ロシアの演劇学者の日本・朝鮮演劇研究 3) 日本・朝鮮演劇の要素の吸収 4) 日本・朝鮮人のロシア内での演劇活動 と4つに分けて考えることができる。1) と2) については少なくとも20世紀の諸データについて整理し、3) については20年代初頭のモダニズム演劇の時代の演劇史的研究をもとに一定の知見を得ている。大きな成果としては4)であり、ロシアでの国立朝鮮劇場について研究の端緒につけたことが大きい。これは20世紀

初頭にロシア極東地方に移住していた朝鮮人の演劇活動を革命後国立劇場として設立するものである。しかしこの劇場は1930年代にスターリニズムによって強制移住させられ、中央アジアのカザフスタンに移転することになる。その後、そこで活動を続け今日に至る。旧ソ連時代のソ連国内の朝鮮演劇はこの劇場に代表される。この活動については概略が知り得た段階で、今後の研究への準備を整えることができている。また朝鮮系ロシア人劇作家についても概略をまとめることができたのは今後の研究に繋がる。とりわけアナトーリイ・キムの劇作品とその活動は、朝鮮系ロシア演劇の実験的演劇の嚆矢として理解されるべきである。日本演劇についても、断片的に知られて来たが、岡田嘉子の国立演劇大学GITISの卒業公演の『女の一生』の上演に関する資料ができた。また現代の日本演劇のロシアでの展開について種々の例があり、今日の日本とロシアの演劇交流の様相をよく示している。大きく4つのカテゴリーで研究を重ね、それぞれにデータを収集し、個別の発表の中で開示している。概して、日本・朝鮮演劇は20世紀のロシア演劇にとっては、モダニズムの側面において多に貢献している一方で、ソ連の30年代の政治に大きく翻弄もされて来た。それらの演劇は、政治性を直接は描いてはおらず、むしろそれぞれの芸術性の中で政治的な枠組みを越境する試みとして理解できる。それは今日のアジア演劇のロシア国内での展開過程を考える上で大きな指針となっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

①永田靖、「カッコウと原爆—内在するディアスポラ演劇」『演劇学論叢』第11号、pp282-299、2010 査読有

②永田靖「オ・テソク、伝統、教室—2008年度大阪大学演劇学研究室研究上演について」『芸術とコミュニケーションに関する実践的研究』2009年3月 pp. 270-277、査読無

③永田靖、「パフォーマンスの介入—メイエルホリド演出『スペードの女王』第1場～第2場をめぐる」『テキストの生成と変容』大阪大学広域文化表現論共同研究 2008年3月 pp. 19-31、査読無

④ Yasushi Nagata, Establishing a modern-traditional theatre— a case study of Japanese regional theatre. Annual Conference ; Modernity and Tradition in East Asia, Korean Theatre Study Association. pp.67-72, May , 2007、査読有

[学会発表] (計5件)

①Yasushi Nagata, Some problems of Asian Theatre Studies, International Asian Theatre Conference, Asian Theatre Working Group, IFTR. Dewan Bahasa dan Pustaka, Kuala Lumpur, Malaysia, 17, March, 2010.

②Yasushi Nagata, Adapting Asia—Ventures by Kaoru Morimoto, Forbidden Voices/ Annual Conference IFTR/FIRT, Lisbon University, 14 Jul. 2009

③Yasushi Nagata, Piling Asia on Asia—Theatrical Syncretism in Postwar Japanese Theatre, Annual Conference IFTR/FIRT, 17 July, 2008. Chuan Gaung University, Seoul.

④ Yasushi Nagata, Preservation and Innovation; on Some Trends of Contemporary Japanese Theatre. International Conference “Traditional Theatre, Modern manifestation 2008” 9, March, 2008. the Chinese Opera Institute. National Museum of Singapore.

⑤ Yasushi Nagata, Performing national identity or performing citizenship? Conference ‘National Theatre in World Culture’ Alexandrinsky Theatre, St.Petersburg. Russia. 16, September, 2007.

[図書] (計2件)

①Yasushi Nagata(Co-author), Two Benefit of Liberalization: A Cross Section of the Korean Diaspora theatre in Russia and Japan, *Global meets Local in Performance*. July, 2010 (7月刊行予定)

②Yasushi Nagata (Co-author), ‘Puppeting a Joruri—is it really needed to be a theatre?’ *Theatre and Democracy*. Ed. Ravi Chaturvedi. Rawat Publications. pp.185-197. 2008

6. 研究組織

(1) 研究代表者

永田 靖 (NAGATA YASUSHI)
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号 : 80269969